

中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	文 学 部	身分	教授
氏名	唐橋 文		
NAME	Fumi Karahashi		

1. 研究課題

（和文）シュメール初期王朝時代ラガシュにおける土地と農業のシステム

（英文）Land and Agricultural System in Presargonic Lagash

2. 研究期間

2年間（ 2018–2019 年度）

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

（和文）本研究は、シュメール初期王朝時代の都市国家ラガシュから出土したおよそ 1800 枚の粘土板（紀元前 2350 年前後の約 20 年をカバーする）を用いて、王妃を中心とする経済組織の土地と農業のシステムに焦点を当て、その概要を明らかにすることを目的とした。

まず、ラガシュ出土の粘土板文書群のデータベース化を重点的に行なった。その結果、様々な項目（人名、職業、性別、家族関係など）によるテキスト・サーチがある程度効率よく行えるようになった。このデータベースはファイルメーカーというソフトを用いているが、エクセルを使った表の形で公にしていくことを考えており、すでにくつかの表が完成している。

2019 年 4 月ベルギーで開催された国際ワークショップに参加し、ラガシュの王妃を中心とする組織が、誰にどれ位どんな土地を割り当てたか、それらの土地を保有するエリート女性たちが、組織の宗教祭儀でどのような役割を果たしたかを口頭発表した。その後、これに手を加えて A. Garcia-Ventura との共著論文にした。この論文を含

も論文集（他 13 論文）を、2020 年 2 月ベルリン自由大学の N. Brisch 教授と共同で編集する作業を行った（まだ編集途中）。

（英文）

When a woman, especially, married, acted in a patriarchal society, we wonder the extent to which she exercised her agency over her activities, if at all; the general assumption is that she acted as a proxy of a man, namely, her husband. My research (during 2018 and 2019) based on the Presargonic E2-MI2 archive of the city-state of Lagash, has shown that some elite women had financial means to actively participate socio-religious activities in their city.